

## 2023年3月期 第3四半期 決算発表カンファレンスコール

[日程] 2023年1月31日

[時間] 17:00 – 17:32

(合計：32分、登壇：14分、質疑応答：18分)

[開催場所] 電話会議

[登壇者] 4名

代表取締役 専務執行役員 木村 徹 (以下、木村)

取締役 常務執行役員 池田 善治 (以下、池田)

経理部長 加島 久宜 (以下、加島)

コーポレートコミュニケーション部 鎌野 公洋 (以下、鎌野)

### 将来予測に関する事項

本資料には、当社グループに関する業績その他の予想、見通し、目標、計画その他の将来に関する事項が含まれています。これらの事項は、作成時点において入手可能な情報による当社の仮定、見積り、見通しその他の判断に基づくものであり、既知または未知のリスクおよび不確実性が内在しております。したがって、その後のさまざまな要因により、予想・計画・目標等が記載どおりに実現しない可能性や、実際の業績、開発の成否・進捗その他の見通し等が記載内容と大きく異なる結果となる可能性があります。医薬品・医療機器（開発中のものを含む）に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

連結子会社であるマイオバント社はニューヨーク証券取引所に上場しており、当社グループはマイオバント社の発行済株式の約52%を保有しています。オルゴビクス（レルゴリクス）、マイフェンブリー/ライエクオ（レルゴリクス配合剤）はマイオバント社の製品です。本資料にはマイオバント社に関する情報が含まれていますが、これらは同社による開示済の情報に基づいています。マイオバント社に関する詳細については、<https://www.myovant.com> をご覧ください。

### 追加情報およびその入手場所

本資料は、企図されるスミトバント社および当社によるマイオバント社の買収に係る勧誘文書と見做される可能性があります。当該企図される買収に関連して、スミトバント社、当社およびマイオバント社は、Schedule 13D の訂正報告書、Schedule 13E-3 を用いた当社およびスミトバント社に係る取引の詳細ならびに Schedule 14A を用いたマイオバント社の委任状を含む関係書類およびこれらの追加・訂正

書類を米国証券取引委員会（SEC）に提出しています。SEC に提出された当社およびスミトバント社の取引詳細ならびにマイオバント社の委任状を含む関係書類には企図される取引に関する重要な情報が含まれることから、同社の株主におかれましては、これらの書類をすべてお読みになるようお願いいたします。投資家および証券保有者におかれましては、これらの書類を SEC のウェブサイト

(<http://www.sec.gov>) にて、無償で入手することができます。また、マイオバント社の株主におかれましては、これら書類を同社のウェブサイト (<https://www.myovant.com>) の IR ページより無償で入手することができます。

#### 勧誘への参加者

スミトバント社、その取締役および執行役員、当社、その取締役および執行役員、ならびに、マイオバント社、その取締役および執行役員は、企図される取引に関し、マイオバント社の普通株主に対する委任状勧誘への参加者と見做される可能性があります。当社の取締役および執行役員に関する情報は、2023 年 1 月 23 日付けで SEC に提出された Schedule 13E-3 を用いた当社およびスミトバント社に係る取引の詳細に、マイオバント社の取締役および執行役員に関する情報は、2023 年 1 月 23 日付けで SEC に提出された同社の株主総会の委任状に記載のとおりです。当該参加者の利害関係に関する追加情報は、本件に関する委任状が提供された後にこれを参照することにより入手可能です。

## 登壇

---

**鎌野**：住友ファーマでございます。本日はお忙しい中、弊社の 2022 年度第 3 四半期カンファレンスコールにご参加いただきまして、ありがとうございます。第 3 四半期の業績および臨床開発の現況についてご説明いたします。

当方の出席者は、代表取締役専務執行役員の木村、取締役常務執行役員の池田、経理部長の加島、司会のコーポレートコミュニケーション部、鎌野でございます。

本日の説明は、e メールにてお送りいたしましたプレゼン資料に基づいて行いますので、ご自身でページを進めてくださいますようお願いいたします。資料は弊社ウェブサイトにも掲載しております。説明の後に質疑応答のお時間を設けておりますので、ご質問いただければ幸いです。

なお、本日のカンファレンスコールは後日ウェブにて配信いたしますので、録音させていただきます。あらかじめご了承ください。

では、はじめに、加島から、第3四半期業績および臨床開発の現況についてご説明いたします。

加島さん、お願いいたします。

2022年度3Q決算概要							金額単位：億円	
■2022年度第3四半期 経営成績（コアベース）								
	2021年度	2022年度	前年同期比			2022年度		
	3Q実績	3Q実績	増減額	うち 為替影響	%	10/31予想	%	
売上収益	4,321	4,603	282	560	6.5	6,040	76.2	
売上原価	1,178	1,397	219	176	18.6	1,820	76.8	
売上総利益	3,142	3,205	63	384	2.0	4,220	76.0	
販売費及び一般管理費	1,886	2,275	389	319	20.6	3,120	72.9	
研究開発費	678	749	71	98	10.4	1,000	74.9	
その他の収益・費用（コア内）	11	※ 248	236	46	-	220	112.5	
コア営業利益	590	429	△160	13	△27.2	320	134.1	
条件付対価公正価値の変動額（△：損）	△2	12	15			10		
その他の非経常項目（△：損）	△5	△619	△614			△630		
営業利益	582	△178	△760		-	△300	-	
金融収益・費用	74	200	126					
税引前四半期（当期）利益	656	22	△634		△96.7			
法人所得税	304	348	44					
四半期（当期）利益	352	△326	△678		-			
親会社の所有者に 帰属する四半期（当期）利益	464	△185	△649		-	△150	-	

  

業績予想を修正しています (P.11参照)			
(参考)スミトバント社関連業績 (億円)			
	21年度 3Q	22年度 3Q	
売上収益	251	670	
販売費及び 一般管理費 ※	653	973	
研究開発費	175	229	
コア営業利益	△625	△590	
営業利益	△625	△591	
四半期利益	△634	△694	
親会社所有者 帰属四半期利益	△522	△552	

上記数値は当社グループ内取引を含む  
※特許権の償却費を含む

※ その他の収益・費用の内訳  
① 優先審査バウチャー売却  
② プロバナ、ゾペネックス  
HFA譲渡  
③ ルネスタ譲渡

【平均レート】  
2021年度3Q実績：1\$=111.14円 1\$=17.26円  
2022年度3Q実績：1\$=136.51円 1\$=19.88円  
2022年度予想：1\$=140.00円 1\$=20.00円

【期末日レート】  
2022年3月末：1\$=122.41円 1\$=19.26円  
2022年12月末：1\$=132.71円 1\$=19.02円

Sumitomo Pharma

© Sumitomo Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 3

加島：加島でございます。

それでは、プレゼン資料に基づき、2022年度第3四半期業績および臨床開発の現況についてご報告させていただきます。

3ページをご覧ください。第3四半期の経営成績についてご報告いたします。IFRSのコアベースで示しています。

売上収益は4,603億円で、前年同期比282億円の増収となりました。日本セグメントでは、薬価改定の影響等により減収となりましたが、北米、中国、海外その他の各セグメントは、為替換算の影響やスミトバントグループ製品の売上伸長により増収となりました。

増収による売上総利益の増加に加え、その他の収益費用では、優先審査バウチャーの売却や、プロバナおよびゾペネックスの販売権譲渡等に伴う収益計上がありました。為替換算の影響等による

販売費及び一般管理費や研究開発費の増加が大きく、コア営業利益は前年同期比 160 億円減の 429 億円となりました。

その他の非経常項目は、第 2 四半期に計上したキンモビの特許権等の減損損失 560 億円を含んでいます。

その結果、営業利益は、前年同期から 760 億円減益のマイナス 178 億円となりました。

税引前四半期利益は、為替差益の計上による金融収益の増加により、前年同期比 634 億円減益の 22 億円となりました。

また、親会社の所有者に帰属する四半期利益についても、649 億円減益のマイナス 185 億円となりました。

なお、直近の動向を踏まえ、年間の業績予想を修正しました。詳細については後ほどご説明いたします。

2022年度3Q決算概要						
■主要製品売上収益（日本セグメント）						
	2021年度 3Q実績	2022年度 3Q実績	前年同期比		2022年度	
			増減額	%	10/31予想	%
エクア・エクメット	294	<b>273</b>	△22	△7.3	349	78.1
トルリシティ *	258	<b>248</b>	△10	△3.7	238	104.2
トレリーフ	129	<b>131</b>	2	1.5	170	77.0
ラツータ	50	<b>73</b>	22	44.2	99	73.2
メトグルコ	63	<b>60</b>	△3	△4.8	78	76.8
ロナセンテープ	15	<b>22</b>	7	45.2	27	82.9
ツイミーグ	1	<b>13</b>	12	—	15	84.9
AG品	75	<b>71</b>	△4	△5.1	97	72.9
その他	287	<b>132</b>	△154	△53.9	185	71.4
<b>合計</b>	<b>1,172</b>	<b>1,022</b>	<b>△150</b>	<b>△12.8</b>	<b>1,258</b>	<b>81.2</b>

金額単位：億円

- トルリシティは12月末で終了
- ツイミーグは9月に処方日数制限解除
- 前年同期の「その他」のうち、リプレガルが107億円
- セグメント全体の薬価改定影響 △95億円

(注) 上記の各品目別の売上収益は、仕切値ベースで記載（\*トルリシティのみ薬価ベース）

◆ Sumitomo Pharma

© Sumitomo Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 4

4 ページは、日本セグメントの売上収益です。

売上収益は、前年同期比 150 億円減収の 1,022 億円となりました。

ラツータおよびツイミーグは売上を伸ばしましたが、薬価改定およびリプレガルの販売移管の影響により、セグメント全体では減収となりました。

通期予想に対する進捗率は 81.2%で、セグメント全体では想定どおりの進捗となりました。

2022年度3Q決算概要											
■主要製品売上収益（北米・中国セグメント）											
	2021年度	2022年度	前年	2021年度	2022年度	前年同期比			2022年度		
	3Q実績	3Q実績		3Q実績	3Q実績	増減額	うち 為替影響	%	10/31予想	%	
<b>北米セグメント</b>	百万ドル			億円					百万ドル	億円	
ラツータ	1,413	1,313	△100	1,571	1,793	222	333	14.1	1,726	2,416	74.2
アプティオム	186	191	4	207	260	53	48	25.6	255	357	72.9
リサイミック	—	22	22	—	30	30	6	—	46	64	46.6
プロバナ	103	21	△83	115	28	△87	5	△75.5	24	34	82.6
キンモビ	4	2	△1	4	3	△1	1	△19.8	3	4	80.3
オルゴピクス	54	128	75	60	175	115	32	193.8			
マイフェンブリー	8	21	13	5	29	24	5	521.8	677	948	71.7
ジェムテサ	38	125	87	42	170	128	32	303.6			
その他 ※	449	224	△225	504	306	△198	57	△39.3			
合計	2,256	2,046	△209	2,507	2,794	287	519	11.4	2,731	3,823	73.1
<b>中国セグメント</b>	百万円			億円					百万円	億円	
メロペン	1,226	1,167	△60	212	232	20	31	9.6	1,290	258	89.9
その他	339	404	65	59	80	22	11	37.2	570	114	70.5
合計	1,566	1,571	5	270	312	42	41	15.6	1,860	372	83.9

※「その他」に含まれる主な一時金収益等

前年度	大塚製薬との提携による収益 \$270M	当年度	オルゴピクスの欧州におけるライセンス契約に基づく一時金 \$50M
			子宮内膜症の承認取得によるマイルストーン収益 \$34M

【為替レート】  
 2021年度3Q実績：1\$=111.14円 1円=17.26円  
 2022年度3Q実績：1\$=136.51円 1円=19.88円  
 2022年度予想：1\$=140.00円 1円=20.00円

■ **北米セグメント**：為替の影響に加え、スミトバント製品の伸長により増収

■ ラツータはペイヤーミックスの変化による販売価格の低下

■ プロバナは2021年6月に独占販売期間終了

■ 「その他」に含まれる一時金収益等が減少（表下の内訳参照）

■ **中国セグメント**：メロペンの集中購買が昨年11月開始

© Sumitomo Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 5

5 ページは、北米および中国セグメントの売上収益です。

北米セグメントは、円ベースで 2,794 億円と、前年同期比 287 億円の増収となりました。

ラツータの売上は、為替の影響により、円ベースでは 1,793 億円、14.1%の増収となりましたが、ペイヤーミックスの変化による販売価格の低下等により、ドルベースでは 1 億ドルの減収となりました。

前期に独占販売期間が終了したプロバナは、87 億円の減収となりました。

スミトバント関連では、オルゴピクス、マイフェンブリー、ジェムテサの 3 製品の売上が合計で 374 億円で、前年同期に比べ 267 億円の増収となりました。

なお、一時金収益、マイルストーン収入はその他に含まれており、その主な内訳はスライド下部に記載のとおりです。

中国セグメントは、312 億円で 15.6%の増収、年間計画に対する進捗率は 83.9%となりました。

メロペンについては、昨年 11 月から開始された集中購買の影響を受け、現地通貨ベースでは 6,000 万人民元の減収となりました。

2022年度3Q決算概要

### ■セグメント別 経営成績 (コアベース)

金額単位：億円

	医薬品事業					その他	連結	
	日本	北米	中国	海外その他	合計			
2022年度実績	売上収益 (外部顧客向け)	1,022	2,794	312	135	4,263	340	4,603
	売上原価	542	491	60	37	1,130	267	1,397
	売上総利益	481	2,302	252	98	3,133	72	3,205
	販売費及び一般管理費	385	1,746	89	12	2,231	44	2,275
	コアセグメント利益	96	557	163	86	902	29	930
	研究開発費					729	19	749
	コア営業利益					420	10	429
2021年度実績	売上収益 (外部顧客向け)	1,172	2,507	270	73	4,022	299	4,321
	売上原価	619	236	53	40	948	230	1,178
	売上総利益	553	2,271	218	33	3,075	68	3,142
	販売費及び一般管理費	383	1,356	88	19	1,847	40	1,886
	コアセグメント利益	170	915	129	14	1,228	28	1,256
	研究開発費					672	6	678
	コア営業利益					567	22	590
増減額	売上収益 (外部顧客向け)	△150	287	42	62	241	41	282
	販売費及び一般管理費	1	389	1	△7	385	4	389
	コアセグメント利益	△74	△358	34	72	△326	1	△326
	研究開発費					57	13	71
	コア営業利益				△148	△12	△160	

- **日本セグメント**: 薬価改定による減収によりコアセグメント利益は減益
- **北米セグメント**: スミトバントグループの費用の増加や為替換算による費用の増加が増収の影響を上回り、減益
- **中国セグメント**: 増収が寄与し、コアセグメント利益は増益
- **海外その他セグメント**: DSP-0187のライセンス契約に基づく一時金(\$50M)により増益

◆ Sumitomo Pharma

© Sumitomo Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 6

6 ページは、セグメント別の経営成績です。

日本セグメントは、減収により、コアセグメント利益は 74 億円減の 96 億円となりました。

北米セグメントは、スミトバントグループの費用の増加や、為替換算の影響による販売費及び一般管理費の増加が増収による売上総利益の増加を上回り、コアセグメント利益は 358 億円減の 557 億円となりました。

海外その他セグメントは、導出による一時金収益の影響が大きく、増収増益となりました。

2022年度3Q決算概要

## ■ オルゴビクスのマーケティング状況

- 2022年度3Qに約4,000人への新規投与を開始（2022年度2Q比で18%増）



- 発売以来、約26,000人の患者さんに処方
- 進行性前立腺がんにおけるGnRHアンタゴニスト製剤でNo.1の59%の月間シェア獲得
- オルゴビクスの発売以来、進行性前立腺がんを対象としたGnRHアンタゴニスト製剤の市場は約2.6倍に拡大

出典：マイオバント社 Third Fiscal Quarter 2022 Public filings

◆ Sumitomo Pharma

© Sumitomo Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 7

7 ページは、オルゴビクスのマーケティング状況です。

オルゴビクスは、2022 年度第 3 四半期に約 4,000 人への投与が開始され、発売以来、約 2 万 6,000 人の患者さんに処方されています。また、オルゴビクスは、進行性前立腺がんにおける GnRH アンタゴニスト製剤でナンバーワンの 59%の月間シェアを獲得し、発売以来、同市場を約 2.6 倍に拡大させています。

## ■マイフェンブリーのマーケティング状況

■ 2022年度3Qに約4,500人への新規投与を開始（2022年度2Q比で50%増）



- 発売以来、約13,500人の患者さんに処方
- 2022年12月末に子宮筋腫・子宮内膜症を対象としたGnRHアンタゴニスト製剤における新規処方箋枚数（NBRx）の38%のシェア獲得
- 2023年1月に、FDAに申請していた子宮筋腫を対象とした2年間の長期投与データ（LIBERTY randomized withdrawal study）の安全性・有効性データが添付文書に追加され、プロモーションに活用予定

出典：マイオバント社 Third Fiscal Quarter 2022 Public filings

8 ページは、マイフェンブリーのマーケティング状況です。

マイフェンブリーは、2022年度第3四半期に約4,500人への投与が開始され、発売以来、約1万3,500人の患者さんに処方されており、2022年12月末に子宮筋腫・子宮内膜症を対象としたGnRHアンタゴニスト製剤における新規処方箋枚数の38%のシェアを獲得するなど、処方を拡大させています。

また、本年1月に、FDAに申請していた子宮筋腫を対象とした2年間の長期投与データの安全性・有効性データが添付文書に追加され、今後プロモーションに活用していきます。



## ■ ジェムテサのマーケティング状況

- 2022年12月に月間処方箋枚数 57,491枚を獲得するなど、2022年度計画に対して順調な進捗

	ジェムテサ	
	2022年9月	2022年12月
β3作動薬 処方箋枚数シェア	11.3%	13.3%
月間処方箋枚数	47,492	57,491

- 2022年9月に比べ、メディケア・パートDにおいてカバレッジが大幅に拡大。2022年度計画に対して計画通りの進捗

	ジェムテサ	
	2022年9月	2023年1月
民間保険全体（約1.8億人）	55%	55%
メディケア・パートD全体（約4,800万人）	30%	80%

- 2023年1月より、主要な市場・処方医・患者さんをカバーするテレビコマーシャルを開始しており、さらなる製品認知度向上、製品普及に取り組む

9 ページは、ジェムテサのマーケティング状況についてまとめています。

ジェムテサのマーケティング状況については、2022年12月に月間処方箋枚数5万7,000枚強を獲得するなど、2022年度計画に対して順調な進捗です。

カバレッジについては、メディケア・パートDにおいて、2022年9月に比べ大幅に拡大し、メディケア・パートD全体の80%を獲得しています。

また、本年1月より、主要な市場・処方医・患者さんをカバーするテレビコマーシャルを開始しており、さらなるジェムテサの認知度向上、製品普及に取り組んでいます。

2022年度業績予想

■2022年度 業績予想（コアベース）

金額単位：億円

	2022年度 10/31予想	2022年度 修正予想	従来予想比	
			増減額	為替影響
売上収益	6,040	5,630	△410	△137
売上原価	1,820	1,730	△90	△50
売上総利益	4,220	3,900	△320	△87
販売費及び一般管理費	3,120	3,080	△40	△83
研究開発費	1,000	980	△20	△25
その他の収益・費用（コア内）	220	500	280	△9
コア営業利益	320	340	20	11
条件付対価公正価値の変動額（△：損）	10	10	—	
その他の非経常項目（△：損）	△630	△620	10	
営業利益	△300	△270	30	
親会社の所有者に帰属する当期利益	△150	△350	△200	
ROE (%)	△2.4	△6.6		
ROIC (%)	△1.0	△0.6		

【為替レート】

2022年度従来予想：1\$=140.00円 1元=20.00円  
修正予想：1\$=135.00円 1元=19.50円



© Sumitomo Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 11

- **売上収益**：410億円の減額修正  
（うち為替影響△137億円）  
為替影響を除く修正額  
日本（+3億円）  
北米（△291億円）  
中国（+14億円）
- **販管費、研究開発費**：為替影響△108億円  
マイオバント社の完全子会社化にかかるコストを織り込む
- **その他の収益（コア内）**：3Qまでに計上した優先審査バウチャー売却、プロバナ・ソベネックスHFA・ルネスタ譲渡に加え、住友ファーマフード&ケミカルの株式譲渡益を織り込む
- **その他の非経常項目**：2Qに計上したキンモビの減損等

11 ページをご覧ください。通期の業績予想の修正についてご説明いたします。

売上収益は、従来予想から 410 億円減額の 5,630 億円を見込みます。為替レート的前提を 1 ドル 140 円から 135 円、1 元 20 円から 19.5 円に見直した影響による減額と北米セグメントのラツータの減額修正が主な要因です。

ラツータは、ペイヤーミックスの変化による販売価格の低下や、独占販売期間の終了による影響を見直し、減額修正となりました。

販管費についても為替を見直した影響が大きく、減額としていますが、マイオバント社の完全子会社化に伴う費用を織り込んだため、実質は増額となっています。

研究開発費は、ほぼ為替の影響により減額修正しました。

コア内のその他の収益については、第 3 四半期までに計上したアセットの売却に係る収益に加え、住友ファーマフード&ケミカルの株式譲渡益を、今年度末までのクロージングを前提として織り込み、増額修正しました。

この結果、コア営業利益は 20 億円増額の 340 億円、営業利益は 30 億円増額のマイナス 270 億円を見込みます。また、金融収益については、円高により大きく減少することを見込むため、親会社の所有者に帰属する当期利益は 200 億円減額のマイナス 350 億円を見込みます。

なお、現在、新中期経営計画の策定に向け、事業計画の見直しを進めており、通期予想にさらなる影響を及ぼす可能性がありますので、お含みおきください。

2022年度業績予想								
■セグメント別 業績予想 (コアベース)								
金額単位：億円								
		医薬品事業					その他	連結
		日本	北米	中国	海外その他	合計		
修正 2022 年度 予想	売上収益 (外部顧客向け)	1,261	3,406	376	170	5,213	417	5,630
	売上原価	659	610	79	57	1,405	325	1,730
	売上総利益	602	2,796	297	113	3,808	92	3,900
	販売費及び一般管理費	521	2,356	115	18	3,010	70	3,080
	コアセグメント利益	81	440	182	95	798	22	820
	研究開発費					954	26	980
	コア営業利益				89	251	340	
1 0 2 3 2 1 2 日 年 予 想	売上収益 (外部顧客向け)	1,258	3,823	372	170	5,623	417	6,040
	売上原価	661	699	79	56	1,495	325	1,820
	売上総利益	597	3,124	293	114	4,128	92	4,220
	販売費及び一般管理費	530	2,390	119	19	3,058	62	3,120
	コアセグメント利益	67	734	174	95	1,070	30	1,100
	研究開発費					974	26	1,000
	コア営業利益				316	4	320	
増 減 額	売上収益 (外部顧客向け)	3	△417	4	0	△410	0	△410
	販売費及び一般管理費	△9	△34	△4	△1	△48	8	△40
	コアセグメント利益	14	△294	8	0	△272	△8	△280
	研究開発費					△20	0	△20
	コア営業利益					△227	247	20

- **日本セグメント**: 販管費の減少を見込み増益
- **北米セグメント**: ラツダ等の売上の減額とマイオバント社の完全子会社化に伴う費用の織り込みにより減益
- **中国セグメント**: メロペン売上を増額修正
- **その他**: コア営業利益に住友ファーマフード&ケミカルの株式譲渡益を織り込む

12 ページは、セグメント別の業績予想です。

日本セグメントは、販売費用を中心に販管費の減少を見込み、コアセグメント利益は 14 億円増額いたします。

北米セグメントは、為替の影響を除くと、売上の減額修正とマイオバント社の完全子会社化のための費用を織り込んだ影響が大きく、コアセグメント利益は 294 億円減額修正となりました。

中国セグメントは、メロペンの売上を増額修正し、コアセグメント利益も 8 億円増加する見込みです。

研究開発

■主な開発品目一覧 (2023年1月31日現在)

  : 精神神経領域
   : がん領域
   : 再生・細胞医薬分野
   : その他の領域
   : フロンティア事業
 2022年10月以降の変更部分は赤字で示しています

地域	フェーズ1	フェーズ2	フェーズ3	申請	
日本	DSP-9632P (パーキンソン病におけるレボドパ誘発性ジスキネジア)	TP-3654 (骨髄線維症)	EPI-589 (ALS/医師主導治験)	ulotaront (SEP-363856) (統合失調症)	
	DSP-0187 (ナルコレプシー)	DSP-5336 (急性白血病)	他家iPS細胞由来細胞医薬 (パーキンソン病/医師主導治験)	ulotaront (SEP-363856) (全般性不安障害) *	
	DSP-0378 (トラベ症候群、レノックス・ガストー症候群)	DSP-0390 (膠芽腫)		SEP-4199 (双極Ⅰ型障害うつ)	
米国	SEP-378608 (双極性障害)	TP-3654 (骨髄線維症)	EPI-589 (パーキンソン病/ALS)	ulotaront (SEP-363856) (統合失調症)	
	DSP-3905 (神経障害性疼痛)	DSP-5336 (急性白血病)	ulotaront (SEP-363856) (パーキンソン病に伴う精神病症状)	ulotaront (SEP-363856) (大うつ病補助療法) *	
	SEP-378614 (未定)	DSP-0390 (膠芽腫)	rodatristat ethyl (肺動脈性肺高血圧症)	ulotaront (SEP-363856) (全般性不安障害) *	
	SEP-380135 (未定)	TP-1287 (固形がん)	URO-902 (過活動膀胱)	SEP-4199 (双極Ⅰ型障害うつ)	
	DSP-0038 (アルツハイマー病に伴う精神病症状)	TP-1454 (固形がん)		ジェムテサ (ピベグロン) (新効能: 前立腺肥大症を伴う過活動膀胱)	
	DSP-3456 (治療抵抗性うつ)	KSP-1007 (慢性尿路感染症、慢性腹腔内感染症)			
中国			ulotaront (SEP-363856) (統合失調症)	lefamulin (細菌性市中肺炎)	

14 ページをご覧ください。ここから開発状況に関してご説明いたします。

この表は、当社の開発品目の開発段階一覧表です。昨年10月からの変更点につきましては、次のページでご説明いたします。

## ■ 臨床開発の進捗状況 (2022年10月31日からの主な変更点)

### ■ ulotaront

米国・日本：全般性不安障害（Generalized Anxiety Disorder: GAD）のフェーズ2/3試験を開始（大塚製薬との共同開発）

（ご参考）

#### ulotarontの全般性不安障害の試験概要

- 試験実施者：サノビオン/住友ファーマ
- 試験デザイン

対象患者	18～65歳の全般性不安障害の患者
群構成	・ ulotaront ・ プラセボ
主要評価項目	ベースラインから8週目のHAM-A合計スコアの変化量

### ■ ラツォーダ（ルラシドン塩酸塩）

中国：双極Ⅰ型障害うつ 開発中止（フェーズ3試験）

### ■ DSP-0509（guretolimod）

米国・日本：固形がん 試験中止（フェーズ1/2試験）、開発方針検討中

### ■ 開発方針検討中であったDSP-7888の開発中止を決定

15 ページをご覧ください。昨年 10 月からの変更点をまとめています。

精神神経領域では、大塚製薬様と共同開発している ulotaront について、米国および日本で全般性不安障害（GAD）のフェーズ 2/3 試験を開始しました。この試験は、サノビオンと当社が実施いたします。試験の概要はスライドに記載のとおりです。

中国で実施していたラツォーダの双極Ⅰ型障害うつフェーズ 3 試験について、事業戦略の見直しにより中止いたしました。

がん領域では、DSP-0509 の固形がんを対象としたフェーズ 1/2 試験を中止しました。本剤の今後の開発方針については、現在検討中です。

なお、開発方針検討中であった DSP-7888 については、開発中止を決定しました。

研究開発	
■2022年度の主なイベント/目標 (2023年1月31日現在)	
✓ 完了したイベント/目標 2022年10月以降の変更部分は赤字で示しています	
精神神経	<input type="checkbox"/> ulotaront : <input checked="" type="checkbox"/> 2つの追加適応症の臨床試験の開始 [ <input checked="" type="checkbox"/> 大うつ病補助療法 <input checked="" type="checkbox"/> 全般性不安障害 ] (SEP-363856) <input type="checkbox"/> 統合失調症の米国でのフェーズ3試験、日本・中国でのフェーズ2/3試験の推進 <input type="checkbox"/> SEP-4199 : 双極 I 型障害うつのフェーズ3試験の推進
がん	<input checked="" type="checkbox"/> レルゴリクス : (欧州) 前立腺がんの承認取得 <input type="checkbox"/> 初期開発品の開発推進
再生・細胞医薬	<input type="checkbox"/> 他家iPS細胞由来細胞製品 (加齢黄斑変性) : 企業治験開始 <input type="checkbox"/> 他家iPS細胞由来細胞製品 (パーキンソン病) : 米国での治験開始 <input checked="" type="checkbox"/> 米国での細胞製品製造施設の建設着手 (リサイミックおよび他家iPS細胞由来細胞製品対象)
感染症	<input type="checkbox"/> KSP-1007 (薬剤耐性) : 米国でのフェーズ1試験の終了 <input type="checkbox"/> ユニバーサルインフルエンザワクチン、マラリアワクチン : 共同研究開発プロジェクトの推進
その他	<input type="checkbox"/> レルゴリクス : (米国) <input checked="" type="checkbox"/> 子宮内膜症の承認取得 (欧州) <input checked="" type="checkbox"/> 子宮内膜症の申請
フロンティア	<input checked="" type="checkbox"/> 製品上市 : <input checked="" type="checkbox"/> (日本) MELTz手指運動リハビリテーションシステム <input checked="" type="checkbox"/> (米国) メンタルヘルスVRコンテンツ (製品名 : First Resort、ジェネラルウェルネス品) <input type="checkbox"/> 既存テーマ推進、上市製品の価値最大化を目的としたエビデンス構築 : 認知症行動・心理症状用機器など

◆ Sumitomo Pharma © Sumitomo Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 16

16 ページをご覧ください。研究開発における 2022 年度の主なイベント/目標の進捗を更新しています。

ulotaront の GAD の試験開始のほかに、レルゴリクスの欧州について、提携先のゲデオン・リヒター社が子宮内膜症の申請を行いました。

フロンティア事業のメンタルヘルス VR コンテンツについて、製品名 First Resort として、2022 年 11 月に米国で試験販売を開始しました。

以上で説明を終わります。

鎌野 : 加島さん、ありがとうございました。

## 質疑応答

---

**鎌野**：それでは、これより質疑応答に移りたいと存じます。

**大和証券 橋口**：

まず通期予想のご説明の中で、今後の中計策定に関連した取り組みの中で変動する可能性があるというご説明があったと思います。これは、2022年度第2四半期、第3四半期に結構活発になされた品目の売却ですとか、事業の売却、このような取り組みがまだあるということをおっしゃったと理解していいのでしょうか。

**木村**：ご質問いただきまして、ありがとうございます。木村から答えさせていただきます。

まさにおっしゃったように、昨秋からさまざまな取り組みを進めております。それで中期経営計画という形で、今後のわれわれの5年間の事業方針を取りまとめている最中でございます。

一方で、毎年のごとではございますが、年度末に減損テストをするということもございまして、今後こういう形で何かが出る可能性を留保しているというところでございます。

**大和証券 橋口**：どちらかという、利益が出るような取り組みは2022年度第3四半期までに終わったものが多くて、第4四半期は費用が出るようなものが今後追加で発生する可能性があると思っただけでいいのでしょうか。

**木村**：そのようにご理解いただいて結構かと思えます。

**大和証券 橋口**：そうした状況を踏まえて、販管費について、来期はどれぐらいで見込んでおいていいのかをご説明いただけませんかでしょうか。一連の事業の整理によって、現時点で見えている販管費の削減効果について、もし可能であれば、定量的にご説明いただけると助かります。

**木村**：それにつきましては、中計、その他の施策の中で今、整理しているところでございますので、現状では少し申し上げることができないということでございます。

**大和証券 橋口**：分かりました。最後に、ジェムテサの2022年度第3四半期の売上、先ほどご説明いただいた内容で上向いていると思うのですが、この数字は特段、一時的な要因、グロスネットの調整ですとか、実在庫の一時的な変動は特に含まれていないと理解してよろしいでしょうか。

**木村**：特に一時的な要因は含まれておりませんで、販売が好調だということでございます。

**大和証券 橋口**：ありがとうございます。以上です。

**シティグループ証券 山口**：マイオバント社の完全子会社化のところで関連費用を織り込んだとあったのですが、60億円ぐらいに見えたのですが、それでいいのかということと、財務費用といえますか、2,500億円ぐらいだと思うのですが、それに関わる金利費用等々の費用は今後どうなるのか、そちらも教えていただければ幸いです。

**加島**：ありがとうございます。加島でございます。

まず、予想のところでご報告いたしましたマイオバント社の完全子会社化に係る費用ですが、こちらを今、織り込んでいるのは、ストックオプションの制度がありまして、その精算関連の費用とファイナンシャルアドバイザーに支払う報酬、それからリテンションの費用などで、合計で80億円程度を織り込んでおります。

あと、子会社化に伴う総額は2,500億円程度ですが、自己資金もございまして、借入は1,000億円に満たないレベルにしたいと思っております。こちらについては、まだ当期にというよりも来年度以降に利息として発生してくるということになります。

**シティグループ証券 山口**：日本は今の金利が上がりつつあるものの、グローバルのレベルでは非常に低いと思うのですが、金利のイメージはどのようなのですか。1%とか2%、そういう感じなのでしょうか。

**加島**：まずは少しブリッジローンでメインバンクから借りますので、それはそれぐらいのイメージかと思いますが、そこから長期の資金化をしていく際には、おっしゃっているように、今、金利が上がっていつていまして、何とも言えない状況かと思っております。

**シティグループ証券 山口**：分かりました。ありがとうございます。

あと、最近の事業の売却というか、その中で、今回の買ったやつとは違って、住友ファーマアニマルヘルスは今期には入っていない。あれは来期ですよ。

**木村**：住友ファーマアニマルヘルスについては、クロージングが来期にずれ込むという見込みになっておりまして、今期の数字には入っておりません。

**シティグループ証券 山口**：分かりました。あれは、いくらって開示されておりましたよね。

**木村**：額については開示できないことになっておりますので、申し訳ございません。

**シティグループ証券 山口**：分かりました。



あと、ulotaront の統合失調症のデータ開示のタイミングですが、今年の後半かなと思っているのですが、これはゾーニングでこの辺だよというのが今言える状況なのですか。

**池田**：池田でございます。

ulotaront の統合失調症につきましては、2023 年度のどこかのタイミングでは出てくると考えておりますので、これまで申し上げたように、2024 年度の上市を目指してやれるようなスケジュールで今考えております。

**シティグループ証券 山口**：分かりました。では、年度の上・下等々の、ある程度のめどというのは、まだ開示はできないという感じですか。

**池田**：そうですね。ある程度、当然社内では、これぐらいでいけるかなというのはあるのですが、まだ若干いろいろ揺れるかもしれませんので。

**シティグループ証券 山口**：分かりました。ありがとうございます。以上です。

**モルガン・スタンレーMUFG 証券 村岡**：

すみません、説明の中で、もしかしたらお話しされたのかもしれないのですが、スミトバントの3品合計の今期の計画値は今回若干下げているように見えるのですが、ここは据え置いているのでしょうか、それとも変更しているのでしょうか。

参考資料（2022年度業績予想）

## ■主要製品売上収益（北米・中国セグメント）

	2022年度 10/31予想	2022年度 修正予想	増減額	2022年度 10/31予想	2022年度 修正予想	増減額
<b>北米セグメント</b>	百万ドル			億円		
ラツータ	1,726	1,565	△161	2,416	2,113	△304
アプティオム	255	255	—	357	345	△12
リサイミック	46	35	△11	64	48	△16
プロバナ	24	21	△3	34	28	△5
キンモビ	3	3	—	4	4	—
オルゴビクス	677	644	△33	948	868	△80
マイフェンブリー						
ジェムテサ						
その他						
<b>合計</b>	<b>2,731</b>	<b>2,523</b>	<b>△208</b>	<b>3,823</b>	<b>3,406</b>	<b>△417</b>
<b>中国セグメント</b>	百万円			億円		
メロペン	1,290	1,364	74	258	266	8
その他	570	562	△8	114	110	△4
<b>合計</b>	<b>1,860</b>	<b>1,926</b>	<b>66</b>	<b>372</b>	<b>376</b>	<b>4</b>

■ **北米セグメント**：為替の影響は△126億円  
ラツータはペイヤーミックスの変化による価格低下や、独占販売期間終了の影響を見直し、減収を見込む

■ **中国セグメント**：メロペンは集中購買の影響が想定よりやや緩やか

【為替レート】

2022年度従来予想： 1\$ =140.00円 1元=20.00円  
修正予想： 1\$ =135.00円 1元=19.50円

◆ Sumitomo Pharma

© Sumitomo Pharma Co., Ltd. All Rights Reserved. 20

**加島**：加島でございます。

資料 20 ページに今期の予想を入れております。修正としましては、3品合計で868億円ということで、948億円から80億円減っていますが、一部為替レートの見直しも20億円程度入っていますので、それを除きますと60億円程度の見直しをしているということです。

**モルガン・スタンレーMUFG証券 村岡**：主にはマイフェンブリーですか。

**加島**：はい。オルゴビクス、マイフェンブリーは当初の期待していた計画からやや下に来ていますので、それを減らしているということになります。

**モルガン・スタンレーMUFG証券 村岡**：分かりました。ありがとうございます。

次に、今回の修正計画のコア営業利益340億円の考え方ですが、このマイオバント費用も織り込み済みということを考えると、340億円から大きくずれた着地にはならないだろうと見立ててよろしいのでしょうか。それとも、為替の話を除けばですが、まだまだ大きなムービングパーツに残っているものはありますでしょうか。

**加島**：コア営業利益のところていくと、それほどとは思っておりますが、このマイオバント社の完全子会社化に係るコストも今の見立てに入れておりますので、その辺りの変動要因はあるかと思えます。

**モルガン・スタンレーMUFGE証券 村岡**：分かりました。ネットのところは少数株主にずれるので、ここは動くとは思えます。

あと、中期経営計画ですが、従来、1年の赤字、2023年度の赤字はやむを得ないが、その後は黒字回復だというお話が何度かあったと思うのですが、この考え方は大きく変えなくても大丈夫そうでしょうか。

**木村**：はい、その方向で中期経営計画をまとめたいということで現在進めております。

**モルガン・スタンレーMUFGE証券 村岡**：それは、資産売却とかによらずに、事業ベースでしっかりV字に戻っていくということによろしいのですか。

**木村**：中期的には、また資産売却ということも考えていきたいと思っております。

**モルガン・スタンレーMUFGE証券 村岡**：分かりました。以上です。

**JP モルガン証券 若尾**：一つ目が、コスト削減の観点で教えていただきたいです。来期以降の実際の金額水準に関しては今コメントできないということですが、考え方としては、補足資料の8ページ目にあるMR人数というところが、特に米国に関しては、今、12月31日時点のデータですと、そこまで大きくは人数が減っていないのですが、ここが来期はどうなるのか分からないですが、大きく減って行って、販管費が下がると考えていてよろしいですか。

**木村**：ここに示している数字は12月31日現在ではあるのですが、2023年1月にラツータ関係の販売要員の整理を実施しておりますので、既にこの数字より三百数十人減っているという状況でございます。一方で、ご存じのように、米国はたくさんの会社がございますので、その辺りの重複コストを何とか切り詰められないかというところで今考えているところもでございます。

**JP モルガン証券 若尾**：分かりました。三百数十人減った後の姿が、おおよその出来上がりの姿なのですか。もう少し減らす可能性もあるのですか。

**木村**：可能性という意味ではなかなか申し上げられませんが、現状、実際には365人だったと記憶しておりますが、減ったのが現状でございますので、そこをベースに、これから事業計画を立てていくということになります。365人は、MRだけではなくて管理要員の人数も入ってございます

ので、ラツーダの販売要員だけではないということをご理解ください。ラツーダ事業に関わる人数を削減したということでございます。

**JP モルガン証券 若尾**：分かりました。ありがとうございます。

あと、オルゴビクスとマイフェンブリーですが、今回も少し下方修正されているということですが、やはりそもそもの計画が強すぎたのかなという気がしています。今回示していただいている投与患者数の数だけを見ると伸びているのかなと思うのですが、そもそも2024年度にオルゴビクスとマイフェンブリーを足して1,000億円というお話もあったのですが、その達成可能性は今も変わらないのですか。そもそも計画が強すぎるとなると、この伸びでもそこには到達しないのかなとも思ってしまうので、その点を改めて教えていただけますか。

**木村**：今、マイオバント社の100%化を進めてございます。それが今年度中にはクローズできると考えておるわけですが、その後、ユーロバント社も含めて、価値の最大化に取り組んでいきたいと考えてございます。

現在は、マイオバント社について、われわれは過半の株は持っていますが、独立に運営しておりますので、その辺りの伸びる余地があるのではないかと期待しているところです。

**JP モルガン証券 若尾**：分かりました。

マイフェンブリーに関して、2023年1月に長期投与データが添付文書に付いたということで、これも伸びのきっかけになるということを前から教えていただいていたので、こういった状況に関しては計画どおりだと思うのですよね。なので、特にマイフェンブリーに関しては、ここから一気に売上が伸びていくということでもいいのですか。

**木村**：ぜひそうなってほしいとは思っておりますが、ここで一気に伸びるというところを確約できるような状況ではないとご理解ください。

**JP モルガン証券 若尾**：分かりました。でも、そういった戦略自体は特に変わっていないということですよ。

**木村**：そうですね、はい。マイフェンブリー、ジェムテサ、オルゴビクスといったようなところを中心に、われわれのこれからの収益をつくっていくということになります。

**JP モルガン証券 若尾**：分かりました。ありがとうございます。以上です。

**鎌野**：ただ今の件で、1点補足させていただきます。

2023年1月に承認を取得しましたが、2年間の投与制限は変わらないという内容になっておりますので、補足いたします。

**JP モルガン証券 若尾**：それは、そうすると、御社の見通しに対しては少しネガティブな材料になり得るということですか。

**鎌野**：売上へのインパクトについては、それほど大きくないと捉えております。

**JP モルガン証券 若尾**：承知しました。ありがとうございます。

**鎌野**：ありがとうございました。以上でカンファレンスコールを終了したいと思います。ご参加いただきまして、ありがとうございました。

以上